

「野鳥の保護研究基金」募金活動をはじめます

日本野鳥の会東京・野鳥の保護研究基金委員会

小笠原と重要度は同じ伊豆諸島

2011年6月24日、ついに小笠原諸島が、ユネスコの世界自然遺産に登録されることが決まりました。日本では屋久島・白神山地・知床に続いて4件目。東京都では初めてのことで、地元としても祝いたいと思います。

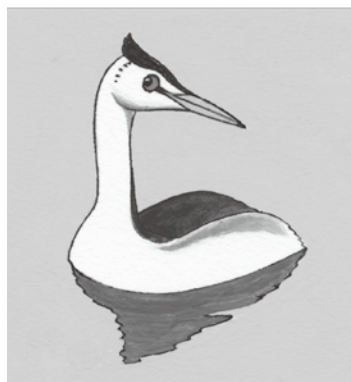
ご存知のように、小笠原諸島は太平洋にできた火山島(大洋島)で、大陸とは地続きになったことはありません。そのため生物の独自の進化が見られ、小笠原の固有種や固有亜種は数多く、鳥類でも絶滅種を含めて固有種4種、固有亜種6種が記録されています。一方、当会がその保護研究の対象としている伊豆諸島にも固有種と呼べる状態の2種(アカコッコ・イイジマムシクイ)、固有亜種5種(ミヤケコゲラ・モスケミソサザイ・タネコマドリ・オーストンヤマガラ・ナミエヤマガラ)が生息しています。小笠原諸島が世界自然遺産ということで脚光を浴びているのに対し、伊豆諸島はちょっとその影に隠れている感がありますが、重要度は変わりません。



〔図1〕アカコッコ

水鳥たちの重要な生息地・東京湾

自然環境の重要度という意味では、東京都には鳥だけでなく東京湾という水辺があります。かつてその海辺は、春と秋、多数のシギ・チドリ類が繁殖地と越冬地を行き来する際の重要な中継点として存在し、六郷川(多摩川)河口や千葉の新浜は世界的に知られた名所でした。今では東京湾の海岸線の90%以上が埋め立てられ、六郷川河口の湿地は羽田国際空港に変わり、また、新浜は行徳保護区(行徳鳥獣保護区と宮内庁の新浜鴨場)と江戸川放水路干潟が残るだけの状況です。しかし、東京湾には毎冬スズガモ10万羽以上、葛西海浜公園や三番瀬の沖にはカンムリカイツブリ・ハジロカイツブリがそれぞれ数千羽生息しています。また、往時に比べれば較べようがないほど貧弱ですが、人工的に造られた湿地やなぎさは水鳥たちの重要な採食・休息地となっています。



〔図2〕カンムリカイツブリ

東京の野鳥を守る保護研究活動

野鳥たちが激減や絶滅に瀕してから「守ろう」「環境の改善を」といっても手遅れの場合が多いものです。当会は、東京都の現状の中で、何が重要で、どうしなければならないかを明らかにするために、今年からその第1弾として伊豆諸島、そして今回第2弾として東京湾に焦点を当て、それぞれアカコッコ〔図1〕・カンムリカイツブリ〔図2〕をシンボルとして「保護研究」をはじめました。そして、このほど寄せられた多額の寄付をもとに、「日本野鳥の会東京・野鳥の保護研究基金」を立ち上げました。活発な活動には資金が必要です。この資金は会員の皆様からの浄財を中心にと考えています。詳しくは、保護研究のページ(8ページ)や裏表紙をご覧のうえ、ご支援くださいますようお願いいたします。(イラスト・谷口高司氏)